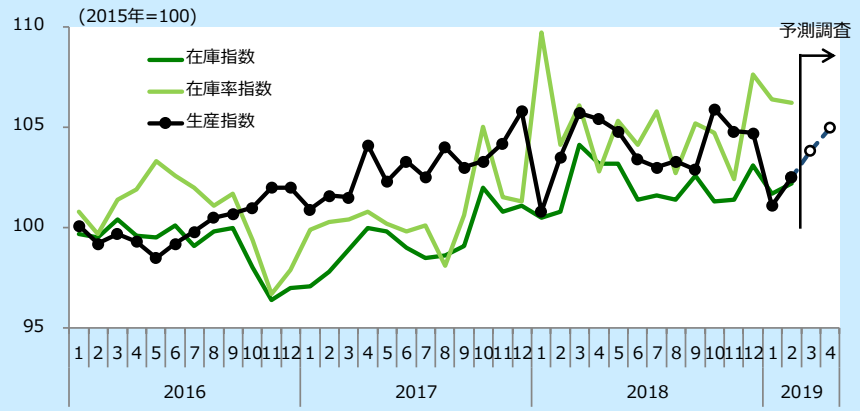
日本：鉱工業生産指数（2019年2月）

ー4ヶ月ぶり増加も反発力弱い、1-3月期は▲2%台後半の見込み

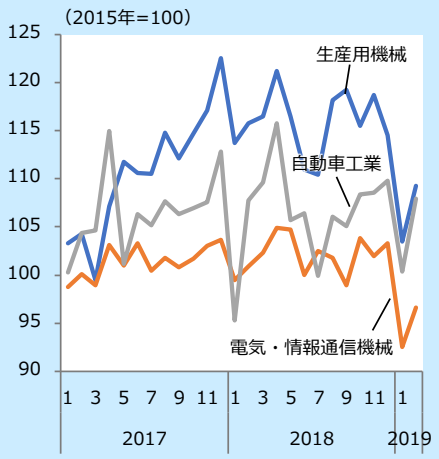
MRI Daily Economic Points
March 28, 2019

鉱工業生産指数・在庫指数



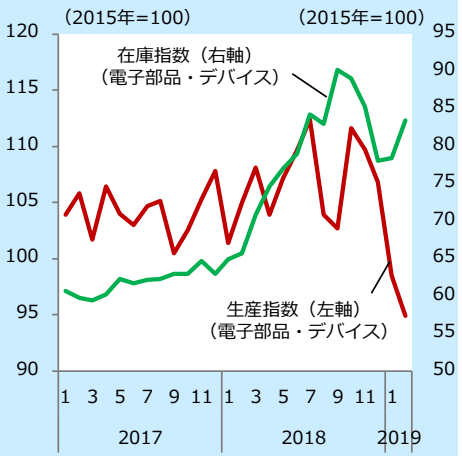
資料：経済産業省「鉱工業指数」

業種別の生産指数



資料：経済産業省「鉱工業指数」

電・デバの生産・在庫指数



資料：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

2019年2月の結果

- 19年2月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比+1.4%と4ヵ月ぶりに上昇した。1月の大幅な減少（同▲3.4%）から反発はしたものの、均してみれば18年秋以降の生産指数は低下傾向にある。
- 上昇に寄与したのは主に、自動車、生産用機械、電気・情報通信機械である。いずれの業種も、1月に前月比▲10%前後の大幅なマイナスを記録したところから持ち直しの動きをみせたが、1月の落ち込み分を取り戻すほどの力強さはない。
- 一方、低下に寄与したのは、電子部品・デバイスである。同業種の生産指数は18年11月から4ヶ月連続で低下しており、累計の低下率は▲15%に上る。電子部品・デバイスの在庫水準は前年を3割程度上回っており、生産調整に拍車をかけている。
- 製造工業生産予測調査によると、3月の生産は前月比+1.3%、4月は同+1.1%と上昇を見込む。ただし、予測誤差を考慮すると実績はこれを下回る可能性が高く、1-3月期の生産は前期比▲2%台後半の減少となろう。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、18年秋以降、緩やかな低下基調にある。内需は堅調ながらも、外需の悪化（①スマートフォンの生産調整やIT投資抑制などによる世界的な半導体需要の調整、②中国経済の減速にともなうアジア向け輸出の減少）が、生産の減少要因となっている。
- 先行きは、内需では増税前の駆込み生産が予想されるものの、外需環境の改善は見込みにくいことから、均せば横ばい圏内での推移となろう。
- 半導体需要の調整期間は、過去の平均で1年半程度である。18年半ばに調整局面入りしたとみられ、19年末頃までは電子部品・デバイスの生産は低調な推移となろう。また、中国経済は、政府が金融緩和や減税など景気下支え策を講じているものの成長減速は続くとみられ、生産用機械や電気・情報通信機械などを中心に生産の下振れ圧力となるだろう。

Copyright (c) Mitsubishi Research Institute, Inc.

担当：政策・経済研究センター　森重彰浩　TEL 03-6858-2717